

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 12 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390426

研究課題名(和文)急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入

研究課題名(英文)The needs of information and nursing intervention among acute myocardial infarction patients

研究代表者

高見沢 恵美子 (Takamizawa, Emiko)

大阪府立大学・看護学部・教授

研究者番号：00286907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,800,000円、(間接経費) 2,340,000円

研究成果の概要(和文)：急性心筋梗塞患者が必要とする医療情報と情報提供への看護介入内容を明らかにするため、冠状動脈バイパス術(CABG)後患者と急性心筋梗塞で経皮的冠状動脈形成術(PCI)を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入について質的研究を行い、さらに質問紙調査でPCIおよびCABG術後患者に必要な情報と看護介入を統計的に比較した。また、看護師が認識する急性心筋梗塞患者に提供が必要な情報と情報提供への看護介入内容を明らかにするため、PCI及びCABG患者に必要な情報と提供するための看護介入について質的研究を行い、さらに質問紙調査で患者に必要な情報と情報提供の看護介入内容を統計的に比較した。

研究成果の概要(英文)：To clarify the medical information required by patients with acute myocardial infarction (AMI) and the contents of nursing intervention for information provision, we performed a qualitative study of the information that patients with undergoing coronary artery bypass graft surgery (CABG) and percutaneous coronary intervention (PCI) for AMI consider necessary along with the nursing intervention for information provision. With a questionnaire survey, we statistically compared the information required by post-PCI and post-CABG patients and the nursing intervention. Furthermore, to clarify the information that nurses consider necessary to provide to patients with AMI and the contents of nursing intervention for information provision, we performed a qualitative study with a statistical comparison with a questionnaire survey for the information required by post-PCI and post-CABG patients and the nursing intervention for information provision.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：周手術期 急性心筋梗塞 看護介入 医療情報

・研究開始当初の背景

医療の効率化を推進している米国では Patient education center、Cancer center などにおいて看護師が系統立てた医療情報を効果的的患者に提供し、患者教育システムを運営している。日本における周手術期患者の情報提供に関する研究は少ない(国広 1998)。千葉ら(2004)は、手術前オリエンテーションを検討する調査において、患者の心理状態や意向を十分配慮できていないため、看護師からの一方的な情報提供になっていることを指摘している。これらのことから急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期の医療情報と情報提供を行うための看護介入を明らかにする必要があると考える。

・研究の目的

急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入を明らかにすることを最終目的として、以下の具体的な目標を達成する。

1. 急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入内容を、身体・心理・社会的側面から総合的に検討する。
2. 急性心筋梗塞患者の周手術期医療に携わる看護師が患者に提供が必要だと考える医療情報と情報提供への看護介入内容を明らかにする。

・研究の方法

急性心筋梗塞患者が必要とする周手術期医療情報と情報提供への看護介入内容を明らかにするために、1～3の研究を行った。また、急性心筋梗塞患者の周手術期医療に携わる看護師が患者に提供が必要だと考える医療情報と情報提供への看護介入内容を明らかにするために、4～6の研究を行った。

・研究成果

1. 冠状動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助

1) 研究目的

本研究の目的は、冠状動脈バイパス術(Coronary Artery Bypass Grafting:CABG)後で急性期にある入院患者が、健康を維持増進するために必要と考える看護師からの情報と、その情報獲得のために必要と考える看護援助への要望を明らかにし、情報提供に関する看護介入を検討することである。

2) 研究方法

対象は某循環器専門病院にて CABG を受けて入院中であり、心身ともに状態が落ち着いた

ていて調査可能と主治医から判断された成人男女 10 名程度とした。

データ収集は半構成的質問紙による個別面接調査と、診療録閲覧による記録調査を行った。

面接調査の逐語録に起こし、コード化・カテゴリー化を行った。

3) 結果

面接内容を分析した結果、患者が考える看護師からの情報は《看護師から必要な情報》と《看護師からは不要な情報》の2つのテーマに集約された。看護師から提供が必要と考える情報として【症状出現時の対処方法】【内服薬】【生活習慣の修正方向】【食事の具体的内容】【活動量の具体的内容】があった。看護師からは不要な情報として【医学的情報】【自分には不要な情報】の2つのカテゴリーがあった。

情報獲得に関わる看護援助として【細やかな対応】【個別性に応じた説明】【適した時期での説明】【外来での相談システム】【看護師の役割の明確化】があった。

4) 考察

CABG 術後急性期にある患者に対して情報提供看護を行う際は、対象患者の身体的心理的アセスメントから情報に対するレディネスを把握することが必要と考えられた。

2. 急性心筋梗塞で経皮的冠状動脈形成術を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入

1) 研究目的

本研究は、経皮的冠状動脈形成術(Percutaneous Coronary Intervention:PCI)を受けた患者への情報提供に関する看護介入を検討していくために、PCIを受けた患者がPCIを受ける前に必要と考える情報、PCIを受けた後に必要と考える情報、および情報提供に関する看護介入を明らかにすることを目的とした。

## 2) 研究方法

研究参加者は、急性心筋梗塞で PCI を受けた経験をもち、循環器科を有する病院に通院しており、本研究への参加に同意した患者 13 名である。

関西の循環器科を有する 2 病院の看護部長に研究協力を依頼し同意を得て、外来師長から紹介された患者に研究の目的、方法、および倫理的配慮について説明を行い、同意の得られた患者に、半構成質問紙を用いた面接調査を行った。調査内容は、年齢、性別、PCI を受ける前に必要と考える情報、PCI を受けた後に必要と考える情報、および必要と考える情報提供に関する看護介入である。

分析は、文脈と推論を重視する Krippendorff (1980/1989) の内容分析の手法を参考に、コード化・カテゴリー化した。

## 3) 結果

PCI を受ける前に患者が必要と考える情報には、【心筋梗塞について】【PCI について】のカテゴリーがあった。PCI を受けた後に必要と考える情報には、【PCI 後の病気の状態】【心筋梗塞の今後の見通し】【PCI 後の日常生活】【症状への対処方法】のカテゴリーがあった。PCI を受けた患者が必要と考える情報提供に関する看護介入には、【理解しやすい説明】【時宜を得た説明】【記憶に残る工夫】【家族への情報提供】【情報獲得の支援】【退院後の相談体制整備】【患者自身に合った説明】【患者が必要とする情報の把握に向けた関わり】【看護師の相談しやすい態度】のカテゴリーがあった。

## 4) 考察

PCI を受ける患者が必要とした情報は、心筋梗塞の二次予防に必要な情報であり、情報提供に関する看護介入として、患者の情報理解促進、情報獲得の促進、情報活用の促進、コミュニケーション促進を図ることが必要であると考えられた。

3 .PCI 及び CABG 術後患者が必要とする情報と情報獲得に必要な看護介入に関する統計的研究

## 1) 目的

PCI および CABG を受けた患者が必要とする情報および情報獲得に必要な看護介入を明らかにした。

## 2) 方法

循環器科を有する 2 病院において、PCI および CABG を受けた外来患者 194 名を対象に、無記名自記式調査票を行った。分析は、PCI または CABG を受けた患者ごとに集計し、比較した。統計解析には SPSS Ver.18 を使用し、2 群間の比較は Mann-Whitney の U 検定を行った。

## 3) 結果

PCI 患者が必要とする情報は、退院支援や生活習慣に関するものが CABG 患者よりも高かった。CABG 患者は、疾患や合併症、治療および内服薬に関するものが PCI 患者よりも高かった。CABG 患者においては、退院支援の中の「注意が必要な症状」と合併症の中の「疾患に関連して起こる他の疾患の症状」に関する情報を PCI 患者より高く必要とし、統計的有意差が認められた ( $p < 0.05$ )。情報獲得のための看護介入においては統計的有意差は認められなかった。

## 4) 考察

本研究で PCI 患者が CABG 患者よりも退院支援や生活習慣に関する情報を必要としたことは、再狭窄への意識が高いことが考えられ、船山ら (2002) の PCI 患者は再発予防を意識し日常生活を送っているという研究結果と一致していた。CABG 患者は PCI 患者よりも治療に関する情報が必要であると認識しており、上田 (2008) が CABG 患者は生命の脅威を体験していると述べているように、侵襲の高い治療を受けるに至った体験が影響していると考えられた。情報提供において必要な看護介入については PCI 患者と CABG 患者の間に差はなく、同様に介入する必要性があると考えられた。

4 .看護師が認識する PCI および CABG を受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入

## 1) 目的

看護師が認識する PCI および CABG を受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入について明らかにした。

## 2) 方法

循環器科を有する病院に勤務する PCI お

よび CABG を受けた患者の看護に携わる看護師 20 名に、半構成的面接を行った。録音した面接内容から逐語録を作成し、質的にコード化・カテゴリ化を行った。さらに、抽出された援助内容に関する 128 コードを対象とし、統計解析ソフト SPSS Text Analytics による形態素分析を行い、妥当性の検証を行った。

### 3) 結果

看護師が認識する PCI および CABG を受ける患者が必要とする情報は、疾患・治療、退院後の生活に関する情報であった。疾患・治療に関する情報として、【狭心症または心筋梗塞という病気について】、【狭心症または心筋梗塞への対処について】、【心筋梗塞の治療について】など 14 カテゴリに分類された。また、退院後の生活に関する情報は、【内服について】、【運動について】、【嗜好品について】、【食生活について】など 8 カテゴリに分類された。

情報を提供するための看護介入は、看護師が患者へ情報を提供する際、【患者の生活に必要な説明を行う】、【患者の状態にあった説明を行う】、【わかりやすく説明する】、【患者自身で学べるようにかかわる】、【他部門や他機関との連携を図る】などの看護介入を行っていた。

PCI および CABG を受ける患者に必要な情報提供への援助内容の妥当性は、援助内容 128 コード中、句読点、助詞を除き、同義語および類義語の統一を行った結果、情報提供の援助のカテゴリは 95 であった。情報提供の援助で最も出現頻度が高かったカテゴリは、「理解力」であり、17 名の看護師から 18 回出現していた。「理解力」と重複するカテゴリを分析した結果、「確認する」と「わかりやすく」が 33.3%、「状態への配慮」が 16.7% であった。

### 4) 考察

看護師は、PCI および CABG を受けた患者の

生活、身体的・心理的状态、理解力などを重視し個別性に合わせた援助を実践し、退院後にうまく情報を活用する能力や意欲を育てるために「患者自身で学べるようにかかわる」ことに重点を置いていると考えられた。形態素分析の結果は、患者の理解力に合わせた看護師の援助は「確認する」、「わかりやすく」、「状態への配慮」であり、質的分析で得られた退院後に患者が情報を活用する能力を育てる援助内容とも一致した。

## 5. 看護師が認識する PCI を受ける患者への情報提供のための看護介入に関する統計的研究

### 1) 目的

狭心症または心筋梗塞で PCI を受ける患者に看護師が提供が必要と認識する情報、及び効果的と認識する情報提供看護介入の差異を明らかにし、患者に応じた看護を検討した。

### 2) 方法

国内の循環器科を有する 3 病院において、狭心症または心筋梗塞で PCI を受ける患者の看護に携わる看護師各 150 名に無記名自記式質問紙調査を行った。分析は、狭心症患者と心筋梗塞患者に携わる看護師の 2 群、および看護師経験 3 年未満、3 - 10 年、10 年以上の 3 群(経験群)によるクロス集計及び  $\chi^2$  検定を行った。

### 3) 結果

疾患群別に、有意差が認められたのは、[梗塞後の心臓の状態][生死に関わる病気なこと][不整脈とは何か][心不全について]であり、いずれも心筋梗塞患者の看護に携わる看護師に必要との回答が有意に多かった。経験年数群間で提供が必要とする情報に有意差が認められたのは、[冠動脈について][疾患の原因について][かかりつけ医との連携][退院後の症状管理][飲酒の再開時期][喫煙の心臓への影響][血中コレステロールと中性脂肪][運動療法での適度な運動][感情表出の必要性]の 9 項目であった。疾患群別に、情報提供手段について有意差が認められたのは疾患および胸痛発作について[他職種に依頼する]と、生活習慣について[クリニックを用いる]の 3 項目であり、いずれも心筋梗塞患者看護師が有意に多かった。経験年数群間で提供が必要とする情報に有意差が認められたのは 12 項目であった。その中でも[口頭

で説明する]は、3-10年あるいは10年以上の看護師に効果的であると認識する割合が多かった。

#### 4) 考察

疾患群間で、提供が必要と考える情報の選択に有意差が認められた項目がいずれも【疾患について】であったことは、心筋梗塞患者の重症化による生命の危機を回避するためと考える。[退院後の症状管理][かかりつけ医との連携][喫煙の心臓への影響][運動療法での適度な運動]は経験年数が増すほどに効果的とする割合が増える傾向にあり、若年看護師への教育的支援が必要と考える。[口頭で説明する]手段が多くの情報について有意差を認めたことは経験を積んだ看護師がその効果を認識していたものと考えられた。[家族に協力を得る]は、胸痛発作やコカゲリソの使用についてといった緊急時への対処に関する情報の提供においては30~40%程度と比較的少ないものであった。家族に関する情報提供を考慮していく必要があると考える。

6. 看護師が認識する CABG を受ける患者に必要な情報と情報提供のための看護介入に関する統計的研究

#### 1) 研究目的

本研究の目的は、CABG を受ける患者に提供する必要のある情報および情報提供のための看護介入について看護師の経験年数による認識の差異を明らかにすることである。

#### 2) 方法

循環器科を有する4病院において、狭心症および急性心筋梗塞で CABG を受ける患者の看護に携わる看護師150名を対象とした。無記名自記式調査票を配布し、看護師が認識する CABG を受ける患者に提供する必要のある情報と情報提供を行うための看護介入について調査を行った。

分析にあたり経験年数3年未満、経験年数3年以上10年未満、経験年数10年以上の3

群に分け、SPSS(ver.20)を用いて、<sup>2</sup>検定ならびに残差分析を行った。

#### 3) 結果

3群間で統計的有意差が認められた情報は、「疾患について」、「検査の必要性」、「制限が必要な活動」、「入院から治療までの経過」であった。経験年数別に<sup>2</sup>検定で統計的有意差が認められた項目は、「疾患について」で、経験年数3年未満の看護師に少なかった。「検査の必要性」および「入院から治療までの経過」についての情報は、経験年数3年未満の看護師に少なく、「制限が必要な活動」についての情報は、経験年数10年以上の看護師に多かった。

多くの看護師は患者に必要な情報を提供する際、全体的にパンフレットを用いることが効果的であると認識していた。また、退院指導や食事について説明する際は、家族の協力を得ることが効果的であると認識していた。

#### 4) 考察

3群間に認められた差異は、看護師が看護の経験を重ねる中で提供する必要があると認識し、情報を提供していると考えられた。経験年数が高くなると、食事と内服について情報提供する際に、他職種だけでなく家族への協力を求めるという多角的なアプローチを展開しており、若年看護師への支援が必要であると考えられる。

・主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. 石田宜子、古谷緑、高見沢恵美子、松本智晴、井上奈々、稲垣美紀、石澤美保子：急性心筋梗塞で経皮的冠動脈形成術を受けた患者が必要と考える情報と情報提供に関する看護介入、大阪府立大学看護学部紀要、査読有、20(1)、39-46、2014.
2. 石田宜子、稲垣美紀、高見沢恵美子、正井崇史、古谷緑、松本智晴、井上奈々、石澤美保子：冠動脈バイパス術後患者が必要と考える情報と情報獲得に関わる看護援助、大阪府立大学看護学部紀要、査読有、19(1)、73-80、2013.

[学会発表](計 5 件)

1. 石田宜子、松本智晴、井上奈々、高見沢恵美子、石澤美保子、稲垣美紀、牧野恵子、山田聡子、大名美紀子：狭心症または心筋梗塞で PCI を受ける患者への情報提供のための看護介入に関する研究、第 24 回日本医学看護学教育学会学術集会、2014 年 3 月 9 日、島根県立石見高等看護学院。
2. 井上奈々、松本智晴、石田宜子、高見沢恵美子、玉井照美、道端由美子、竹下エミ子、大名美紀子、杉野由紀子、稲垣美紀、石澤美保子：CABG を受ける患者に必要な情報及び情報提供のための看護介入に関する研究、第 24 回日本医学看護学教育学会学術集会、2014 年 3 月 9 日、島根県立石見高等看護学院。
3. 松本智晴、井上奈々、石田宜子、高見沢恵美子、山田聡子、杉野由紀子、稲垣美紀、石澤美保子：PCI 及び CABG 術後患者が必要と考える情報及び情報獲得に必要な看護介入に関する研究、第 24 回日本医学看護学教育学会学術集会、2014 年 3 月 9 日、島根県立石見高等看護学院。
4. 井上奈々、松本智晴、石田宜子、高見沢恵美子、石澤美保子、稲垣美紀：PCI および CABG を受ける患者に必要な情報と提供するための看護介入、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 6 日、大阪国際会議場。
5. 松本智晴、井上奈々、石田宜子、高見沢恵美子、石澤美保子、正井崇史、稲垣美紀：形態素分析を活用した PCI および CABG を受ける患者に必要な情報提供への援助、2013 年 12 月 6 日、大阪国際会議場。

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

大阪府立大学看護学研究科療養学習支援センターホームページ手術のお悩み相談、手術やカテーテル検査・治療を受けられる方へ  
<http://plaza.umin.ac.jp/~pteduc/>  
心臓のカテーテル検査・治療を受けられる方  
心臓の冠動脈バイパス手術を受けられる方

6. 研究組織

(1)研究代表者

高見沢 恵美子 (Takamizawa Emiko)  
大阪府立大学・看護学部・教授  
研究者番号：00286907

(2)研究分担者

石田 宜子 (Ishida Noriko)  
大阪府立大学・看護学部・准教授  
研究者番号：70290369

松本 智晴 (Matsumoto Chiharu)  
大阪府立大学・看護学部・助教  
研究者番号：80540781

井上 奈々 (Inoue Nana)  
大阪府立大学・看護学部・助教  
研究者番号：80611417

稲垣 美紀 (Inagaki Miki)  
梅花女子大学・看護学部・准教授  
研究者番号：60326288

石澤 美保子 (Ishizawa Mihoko)  
奈良県立医科大学・医学部・教授  
研究者番号：10458078

(3)連携研究者

( )

研究者番号：